



● 草の根協力支援型

2018年度 採択内定案件

<b>I. 提案事業の概要</b>	
1. 対象国名	ブータン王国
2. 事業名	ブータン王国における胃癌撲滅のためのパイロットプロジェクト
3. 事業の背景と必要性	ブータンは世界第2位の胃癌多発国であり、胃癌はこの国の癌死亡率の1位を占める。この原因は胃癌の原因と考えられているヘリコバクター・ピロリ（以下「ピロリ菌」）の高い感染率（約80%が陽性）と強毒性のピロリ菌が多数を占めることにあると予想される。ピロリ菌の除菌は胃癌、消化性潰瘍の発生率を激減させ、胃癌の早期発見は死亡率の低下に寄与する。現在ブータンには胃癌発見に必須な内視鏡技術を有する医師は数名しかおらず、かつて世界有数の胃癌多発国でありそれを克服してきた日本の胃癌発見の知見と技術をブータンの医師と共有し、現地にてピロリ菌の危険性、胃癌や潰瘍の予防、早期胃癌発見の為の手段を伝える事は多くのブータン国民の健康に貢献できる。またこのプロジェクトを通じて日本-ブータン間の相互理解を推進するものとする。
4. プロジェクト目標	ブータンの胃癌撲滅に必要な対策を一定のモデル地域の住民および医療関係者に伝授し、成功モデルを作る。
5. 対象地域	ティンブー及びパロ郡トガール地域ダワカ村
6. 対象地域を管轄する大使館及び領事館	在インド大使館
7. 本事業の対象となる人々	ダワカ村の住民とブータン王国（ティンブー中心）医療関係者
8. 事業活動	<ol style="list-style-type: none"> <li>首都近郊のダワカ地区をモデル村として、地域の保健所を中心にピロリ菌感染の胃癌へのリスクを医療関係者及び住民に伝達する研修会を開催。</li> <li>ブータンの検査技師に、ピロリ菌検査、及び胃癌リスク検査（ヘプシノーゲンテスト）方法とサンプルの集計方法の研修を行う。</li> <li>ブータン人医師にピロリ菌のリスクと除菌方法の研修を行う。</li> <li>Jigme Dorji Wangchuk National Referral病院にて、8名のブータン医師を選出し、内視鏡モデルを用いて日本人内視鏡専門医が胃癌早期発見のための研修を行い技術を伝授する。又、自己学習の為のe-learningを提供、インターネットを使ったカンファレンスにより、技術の維持をサポートする。この結果ブータン人医師が国内で自立して内視鏡医を増やしていくことが可能となる。</li> <li>最も意欲のあるブータン人医師を日本へ短期招聘し、医療技術と同時に日本を紹介し、日本の医療関係者との交流を深め、モデルケースの結果をまとめ保健省に提出し、胃癌対策の国策への提言とする。</li> </ol>
9. 実施期間	2019年10月～2022年9月（3年0ヵ月）
10. 事業費概算額	9,995千円
11. 事業の実施体制	ブータンのカウンタパートは住民への説明とリスト作成（医科大学）、ピロリ菌感染検査（国立感染制御センター）を行う。また検診としての内視鏡検査はJDWNR病院内視鏡科が施行。本法人は住民への資料作成、ピロリ菌検査試薬の提供と、検査に必要な技術の教授、8名のブータン人医師への内視鏡指導（TTT, e-learning, 遠隔カンファレンス）を行う。最終的な結果集計は協同で行い報告をまとめて発表し政府の胃癌撲滅の国策に役立てる資料として、ブータン王国に提供する。
<b>II. 提案団体の概要</b>	
1. 団体名	特定非営利活動法人胃癌を撲滅する会
2. 活動内容	本法人はピロリ菌が蔓延し胃癌が多発する途上国の医療関係者及び一般市民に対し、ピロリ菌による健康被害と除菌の予防効果、検診による早期胃癌発見の重要性を伝え、同時に、当該国の医師に胃癌発見のための、医療教育を提供し、当該国の医師の医療技術の向上を助けることによって、胃癌死の減少に寄与する。